

# タイラギ種苗生産を支えるエサ

二枚貝の種苗生産では、幼生のエサとして、海産の浮遊性の微細藻類を使っています。

与えるエサの条件として、栄養価が高いこと、幼生が食べられる大きさであること、大量培養が可能なことなどが重要です。

そこで、タイラギの幼生に与えるエサについて検討しました。

まず、エサとして与えるためには大量に培養できなければならぬことから、水産研究・教育機構の水産生物遺伝資源保存事業（\*）で保存されている餌料生物に着目しました。

この事業で保存されている餌料生物には、微細藻類やワムシがあります。その中から、タイラギの幼生の口に入る大きさで、栄養価が高い微細藻類の仲間であるイソクリシス・タヒチ株を選びました（写真1）。

イソクリシス・タヒチ株を大量に培養して、タイラギ幼生に与えたところ、稚貝の生残率も良く、着底稚

貝を大量に生産することができました（写真2）。

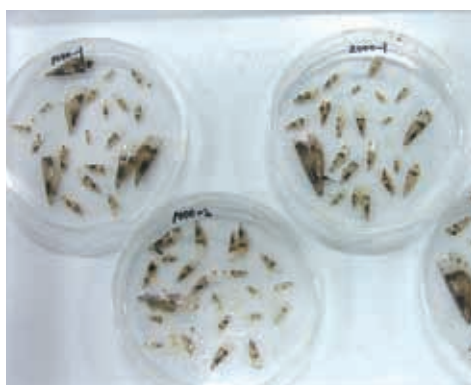


写真2 生産されたタイラギ着底稚貝



写真1 イソクリシス・タヒチ株

緑がかった褐色の微細藻類で、大きさは5〜6マイクロメートル。1本の鞭毛（→）を使って活発に遊泳するので沈殿しにくく、また、栄養価も高いため、実用的な生物餌料として注目されています。

（1マイクロメートル=1ミリの千分の1）

## \* 水産生物遺伝資源保存事業

水産研究・教育機構では、増養殖研究所・育種研究センターが中心となり、水産生物の遺伝資源の国内外からの収集、分類、同定、特性調査、増殖、保存及び配布などを行う水産生物遺伝資源保存事業に取り組んでいます。

生物餌料（ワムシ、栄養価の高い微細藻類）、藻類（コンブ類、ワカメ・アラメ・カジメ類、アマノリ類）、微生物（水産動物の病気の原因となる細菌類や利用価値のある海洋細菌など）を対象に、特徴的な性質を調査し、生きた状態で保存し、広く試験研究などに役立てていただくために配布をしています。なお、配布している生物の種類については、下記ウェブサイトをご覧ください。

この成果で使用されたイソクリシス・タヒチ株のほかにも、微細藻類として、珪藻類、緑藻類などが生物株として保管されています。

▶ ジーンバンク配布株一覧 <http://nria.fra.affrc.go.jp/bank/13.html>

